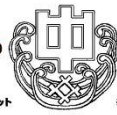


「また明日」と笑顔で言いたくなる学校づくり

～優しさと強さ、しなやかさとたくましさを併せもつ生徒の育成～



「よいやさ祭り」に参加しました

5月3日（水）、4年ぶりに開催された「よいやさ祭り」に生徒有志約 80 名が参加し、祭りを盛り上げました。地域の方の呼びかけに応じた 1～3 年生の有志が子供神輿男女1基ずつを担ぎました。4年ぶりに復活したことで、生徒は未経験でしたが、地域の方に教えていただきながら、「よいやさ」のかけ声とともに町を練り歩きました。



晴天に恵まれ、地域には生徒たちの元気なかけ声が響いていました。ふるさとを誇りに思い、愛する心を育ててほしいものです。地域の中で中学生が活躍してくれることを願っています。

「よいやさ」かけ声響く 井波華みこし4年ぶり

南砺市の井波八幡宮の春季例大祭に合わせた「よいやさ祭り」が3日、同市井波地域中心部で開かれ、「よいやさ」のかけ声とともにみこしが練り回った。女性が担ぐみこし「華みこし」が4年ぶりに復活したほか、児童が日本舞踊を披露する踊り屋体もあり、祭りを華やかに彩った。

2基の大みこしと3基の子どもみこしが、午前9時に八日町通りを出発し、約10キロを巡行した。

「華みこし」は、女性の力で祭りを盛り上げようと担ぎ手を募集。県内外から集まった約40人が威勢の良いかけ声とともに町を練り歩いた。富山市から参加した打楽器奏者、野替亜紀子さん(45)は「思ったよりも重くて大変だけど、みんなで担ぐと一体感がある」と汗をぬぐった。

地元の女子児童4人による日本舞踊の踊り屋体も巡行し、みやびな踊りで見物客を楽しませた。

踊り屋体は踊り子や世話人の減少で2009年にいったん途絶えたが、井波日本舞踊佳佳協賛会（三谷直

田中幹夫市長ら招待客にも披露し、4人があでやかに踊り終えると大きな拍手が起った。

祭りは江戸後期の1883

3（天保4）年に始まったとされ、2020、21年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止。昨年3年ぶりに実施した。（石田大成）



「よいやさ」のかけ声とともに大みこしを担ぐ男衆＝南砺市井波